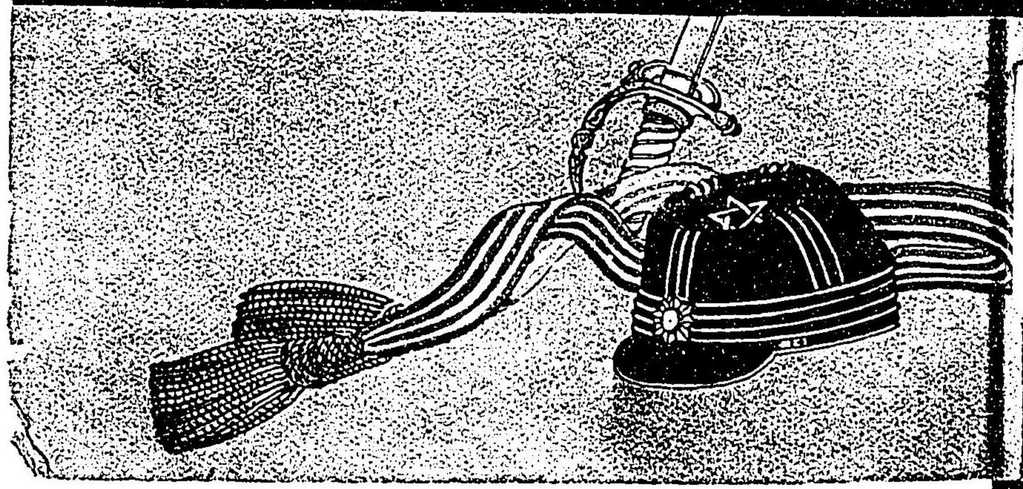
162
1042

國威發揚

討清劍舞



特63
204

序

膺懲ノ師一タビ海外ニ出デシヨリ詩人ノ吟詠頗ル活潑ヲ生シ其ノ聖德ヲ謳歌シ猛將勇士忠奮義烈ノ所ノ詩篇皆豪健逸宕ニシテ雄渾悲壯ノ致ニ富ミ揚スル所ノ詩篇皆豪健逸宕ニシテ雄渾悲壯ノ致ニ富ミ而シテ南州先生ノ擬古樂府體數篇特ニ老蒼勁拔直ニ老杜ノ壘ヲ摩シ慷慨淋漓ノ態、輕佻纖浮ノ態ヲ詞句ノ間ニ流露ス眞ニ近時ノ傑作ト謂フベキナリ余ヤ反覆朗吟ノ際髮堅ナ肉躍リ思ハズ匣裏ノ劍ヲ執リテ起ヲ隨ヒテ吟シ隨ヒテ舞ヒ略ボ其曲ヲ節作リ遂ニ又其ノ進退周旋ノ緩急疾徐ヲ筆錄シ以テ世ノ健兒ト其愉快

朝倉文庫

ヲ共ニセント欲シ此小冊子ヲ編スルニ至レリ嗚呼余ヤ齢將ニ三十ナラントシテ志未ダ立タズ徒ラニ禿筆凹硯ヲ伴ヒテ浪華ニ客寓スル丁年アリ然レドモ一片ノ壯心尚ホ未ダ銷磨セズ常ニ憾ム今日ノ時勢ニ際シ筆ヲ投シテ戎軒ヲ事トスル能ハザル丁ヲ今此小冊子固ヨリ以テ大方ニ示スニ足ラザルモ若シ能ク世人ノ敵愾心ヲ皷舞スルノ一助トナルヲ得バ余ガ報國ノ微衷モ亦聊カ達シタリト謂フベシ讀ム者幸ニ視テ以テ閑文字ト爲ス丁勿レ

明治二十七年十月

三田村楓陰

討清劍舞

三田村楓陰作曲

近藤南州

出師

海内忽傳風聲急。說道逆胡犯隣境。我皇赫怒叱三軍。學直欲虐犬豚。嗚呼男兒國之義氣動乾坤。鋼鐵艦爲隊。奮然向海外。壯士豈無情。恥爲婦女態。不灑半行別離淚。致身所事如纖芥。君不見天兵出來多智謀。蹂躪海西四百州。

海上忽傳風塵警。

海上と吟ぜる間は左手を刀にゝ左片膝を立て右手を右膝に突き威儀儼然として前方を見詰め忽傳にて右手ハタと股を撲ち勢よくスックと立ち上り風塵警にて第一圖の如く右手を額にゝ海上より軍艦などの來るを遠望するさまをなすべゝ此の時右足を一歩後にひらき體を稍右に傾くべし

說道逆胡犯隣境

說道にて先づ右手にて左腕の衣をまくり上げ又左手にて右腕の衣をまくり上げ逆胡にて後に引きたる足を左足に集むると同時に両手にて袴を揭げ犯隣境にて左足より踏み出し二歩前へ進み両足を揃へて直立し悲憤のおもゝちをなすべし但ゝ両手は袴を揭げ握りたるまゝなり

我皇赫怒叱三軍。

我皇にて袴を握りたる手を離し掌を上にして両手を前に伸ばし頭を俯く中腰になりて左足より初め二歩退き貴顯の人を敬するさまをなし赫怒※

伸ばし左手、刀の鍔下を握り右手にて刀の柄を皷き叱三軍にて右手もてスラリと抜き離して前に突出し三軍を指揮する狀※にて体をなす此擧動は緩慢に流ざるを要す

一擧直欲屠犬豚

一擧にて前に突き出したる刀を左へ一廻して（右手のみにて）上より下へ烈く切り下げ直にて刀を大上段に擡へ両手にて刀柄を握り右足一歩開く欲屠犬豚にて右足を一歩前に踏み出すと同時に左方へ切り下げ又左足を進むると同時に刀をかざし右方へ切り掃ひ終りの欲すの時に両足そろへて袴の左方よて刀を拭ふ此の一句は吟聲擧動と共に尤も力を入れ活潑敏捷なるべし

嗚呼男兒國之義氣動乾坤。

嗚呼男兒國之義氣と吟ずる間に刀を納め右足より始めて徐々と二歩後に退き両足を揃へて直立〳〵動乾坤にて両手を上より下に廣げ両股をハタと撲つと同時に又右足を※

※一歩後に引く但〳〵両手を上ぐる時に同じ。

〳〵く頭を仰むけ天を望むさまをなすべ〳〵

鋼鋏艦爲隊。奮然向海外

鋼鋏艦にて右足を引き寄せ手を左右に廣げ爲隊にて左手を腰にし右手、掌を前よ〳〵て伸ばし左より右へ動かし奮然にて勢よく両足を左右に開くと同時に両手にて袴の前紐をきび〳〵くしめ身構をな〳〵向海外にて右足より踏み出し二歩前に進み遠方を見詰める

壯士豈無情。耻爲婦女態。

壯士にて右足を一歩引き左膝を立てゝ坐し之と同時に左手にて刀を鞘のまゝ拔きて體の左に置き豈無情よ

て両手にて胸を撫〜婦女態よて両袖もて面を蔽ひ耻爲にてその両袖を振ひ除け両手を膝に〜涙を喰ひ〜はる思ひ入れ（上歯にて下唇を嚙むを要す）をなす

不濺半行離別涙。

不濺にて左手脉處にて左眼の涙を掃ひ半行にて右手脉處にて右眼の涙を掃ひ離別涙にて右膝を右手にてはげしく撲ち左手にて刀を携さへ決心して出陣するさまをなゝ起ち上がるべ〜

致身所事如纖芥。

致身所事にて中腰よなり両手刀をよこに前へ捧げ上げやがて体を伸ばし刀を腰に佩び如纖芥にて左手を固めて胸をうち、握りたるものを棄つるが如く拳を開きて左手を前に伸ばす

君不見天兵由來多智謀。

君不見て左手を刀の所に持ち來り體の上部を後へそらし天兵にて両手を頭の左右より上げ天を眺め由來にて左手を伸ばし其の掌を上に向け拇指食指を折り右手の食指にて之れを指し破敵如指掌の思入をなし多智謀にて両腕を組み稍や頭を傾く

蹂躪海西四百州。

蹂躪して左足にてきつく席を蹶、又右足にて蹶、海西にて右手を伸ばし食指にて一方を指し四百州にて左手を伸ばし拇指より初めて四本の指を折りて數ふ

◎龍山寨

近藤南州

劍氣寒。龍山寨上月闌干。令嚴
兵營靜。陣雲不起龍虎蟠。丈夫
去國在異域。奇功只要除殘賊
三更枕戈鶴鶻眠。夢落長城以
南天。

劍氣寒。龍山寒上月闌干。

先づ初に左手を刀にして右膝を席につき左片膝を立てゝ坐し劍氣寒にて右手にてスラリと刀を拔はゝして前に突出又之を眼の前に持來り鍔元より切先へ切先より鍔元へ見上見下べし龍山寒上よて刀を左※脇に挾乍ら足を揃て直立し月闌干にて右手を額に加へ月を眺る樣をなし右足を後に曳

令嚴兵營靜。陣雲不起龍虎蟠。

令嚴にて左脇に挾みたる刀を右手に執りて前に突き出し（右足よせる）一度之を振り号令のさまをなし兵營靜にて右手の刀を引さて右肩の所まで持ち來り左手にて口を掩ひ三軍銜枚の心意氣をなし此の時右足を一歩後に開く陣雲不起にて右手は其の儘になし左手を廣げて前を左右に掃ひ雲を拂ひ除ける思入れ之と同時に右足より初め二歩前。※止まり龍虎蟠にて左足を一歩後に引き体を左にかゝし右膝をたて左膝を席に付けて体を屈め両手にて刀柄を持ち刃を疊に突き刺し（實際突き刺すには及ばず）頭を俯すへ進み左足にて※

丈夫去國在異域。

丈夫にて刀柄を持ち變へ右手のみにて提げ左手丶袴の塵を拂ひて起ち上り去國にて左手を右肩の處に持ち來りて後方を指し之と同時に頭を右後に向け故郷を顧みるさまをなし在異域にて左手を伸ばして遠方を指し又之を引て胸にあて稍頭を俯し左右の袖を眺め客衣の薄きを歎ぎる心意氣あるべし

奇功唯要除殘賊。

奇功にて思ひ出したる如くに右手に提げし刃を前に持ち出し莞爾として笑を含み唯要にて左拳にて胸を打ち如何にも決心のさまを顔にあらはし除殘賊にて両手刀柄を持ち一二度振りて腕だめしをなすべし此の時右足一歩後に開く

三更枕戈鼾鼾眠。

三更よて左手の指を三本伸〜て前に出し枕戈にて左膝を立てゝ坐し左手をもて刀柄を握り之を右膝の側にたて鼾鼾眠にて右手にて頤を支ひ肘を左拳即ち刀柄の上に置き暇を閉ぢて眠る

夢落長城以南天。

夢落にてクワッと眼を睜らき長城にて左手にて握りたる刀を勢よく背後よ廻はし〜刃尖を上にし項の所に當る程にす〜之を同時に起ち上り以南天にて右手。に渡〜之を鞘に納むべし

前方を指〜やがて背後にせ〜刀を右手。

人如虎。馬如龍。三軍英氣衝太空。」礮聲動山賊膽落。奮進爭先奪營幕。勢如疾風振枯槁。二千餘兵塡谿壑。」更衝巢窟勢益豪。何料猾賊早已奔竄而遁逃。吁嗟區々豚犬不足汚我日本刀。

人如虎。馬如龍。

人如虎よて先づ右手、左腕を扼し又左手、右腕を扼し勇壯乃容を示す馬如龍に両足を左右に開きて馬に跨りたる身振り両手は前の袴の結び目位にあて手綱を握り居る様をなし大股よて一歩前進す

三軍英氣衝大空

三軍にて左右の足を集め左手を前に出〜三本の指を伸ばし〜英氣にて右手、刀を拔きはなして前上の方よ突き出し衝太空左掌を開きながら高く頭上よさ〜上く

礮聲動山賊膽落

礮聲よて右膝を地に付け左膝を立て折り敷の構へを爲し〜刃をて銃を狙らふ狀をな〜動山にて刃を前に投げ賊膽落にて左手胸を打つと同時に右手を伸ばし刃を拾ひ

持つ

奮進爭先奪營幕。

奮進にて両手もて刃を頭上にうざ〜爭先にて脚を屈め
たるまゝ全身を躍ら〜て一三歩前ゑ飛び左へ切り下げ
奪營幕にてスックと起ち上り刃を左手ゑのみ托〜右手
を伸ば〜力をこめて敵の幕を引き抜くが如ささまをな
す此時右足より二歩後に退く

勢如疾風振枯槁。

勢ゑて二歩退きたる足を直ちに又二歩前に進め疾風に

て頭を右に背向け大風の來りたるさまをか〜如振枯槁
にて右手を袖にして左右に揺か〜風に木の葉の散る形
をなす此時又二歩後へ引き休、左向き〜て止まる

二千餘兵塡谿壑。

二千餘兵にて先づ左足、次に右足もて強く席を蹶おが
ら前進〜敵兵を谷底に蹴落すさまを爲〜塡谿壑にて右
足一歩後に退き刀を持ちたる左手も、右手も腰にあて
下方を見下す

更衝巢窟勢益豪。

更にて左手の刀に右手を添へ之を右の後横へはげしく引き寄せ衝巣窟にて両手を伸ばして其の刀を前に突き出すと同時に右足一歩前に踏み出し勢益豪にて両手に持ちたるまゝ刀を左より右へ大まわしをなし右手のみに托して前へ高くふり上げる

何料猾賊早已奔竄而遁逃。

何料にて右足を後に引き振り上げたる右手の刀を後に引き下し左手の掌を開きながら左脇の邊に引き意外なるに驚きし体、猾賊早已にて右足を左足に寄せ集め刀を鞘に納め奔竄而遁逃にて両手を腰に一右へ一廻りをなす

嗚呼區々豚犬不足汚我日本刀。

嗚呼にて両手徐かに胸を撫て下し區々にて頭を左右に振り動かし豚犬にて両手を揃へて前に伸ばし食指と食指とを並べ合す我日本刀にて刀を一尺ばかり拔き頭を俯し(右足一歩後に開く)刃を見詰め不足汚にて頭をキツト振り上げ鍔音はげしくストンと鞘に納むると同時に右足を引き寄せて直立す

◎平壤

近藤南洲

前月豐島屠長鯨。繼而成歡鏖万兵。天戈所指無敵手。意氣併呑平壤城。」平壤地險絶。抱城大同江水咽。胡虜來據五六万。漫道勇猛謀略精選天下傑。」天兵見之如孩蟲。涉險而進眞豪雄。天日之旗何整々。紅輪閃動江城風。」巨礮轟。吶喊起。城壁頹。胡虜死。滿城屠盡吁快矣。」鮮血注江々水長。浪捲紅雪勢激昂。餘紅汎濫黃海水。流自東洋及西洋。

前月豐島屠長鯨。

両足を揃へ両手を腰にして立ち前月にて左手を右肩に持ち來りて後を指し豐島にて右足を一歩後に開くと同時に右手を掌を開きて右横に伸ばし屠長鯨にて右足一歩前に踏み出すと同時に刀を拔き前へ切り下げ鯨鯢を屠るといふ身振り

繼而成歡鏖万兵。

繼而にて又右足を後に引き刀を体の右側に提げ成歡にて左手を伸ばして左方を指ざし鏖万兵にて両手、刀を頭上に振りかざし右足を踏み出して激しく切り下ぐ

天戈所指無敵手

天戈にて右足を左足に引き寄せると同時に刀を眞直に額上に捧げ所指にて捧げたる刀を一旦下げて正面に突き出し無敵手にて刀を上より左り下へ大まわしをなし右手のみに委して高く頭上へ横に掲く左手は横にす

意氣併呑平壤城

意氣にて刀の柄を持ち變へ徐々に鞘に納め併呑にて両手を廣げ右足を退き又左足を引き平壤城にて右手を左より右に掌を下にして動かす此の時左足を引き寄せ左

手を腰にす

平壤地險絶

平壤にて両手を組み地險絶にて頭を上げて右左を見上げ如何にも敵壘の險絶なるを見る体をなす

抱城大同江水咽

抱城にて組みゐる手を解き右左に廣げ城を取りかこむといふ心意氣をなし大同にて右手を左より右に動かし(掌を下に向けて)川の流るゝさまをなし江水咽にて両手、裳を掲げて流を見詰め將に渉らんとするさまをな

す

胡虜來據五六萬。

胡虜にて左手左方を指〻來據にて又右手右方を指し五六万にて左手の指を順次に折りて數ふ

漫道勇猛謀略精選天下傑。

漫道にて右膝を席に附け左膝を立て右掌にて席を一つ叩き勇猛謀略にて左右の腕をまくり精選天下傑にて両手、上より下に大まわ〻に開き両掌を並べて上に捧ぐ

天兵見之如孩蟲。

天兵にて刀を鞘のまゝ右手にて脱〻見之にて刀を力に〻て立ち上り如孩蟲にて左手、刀鞘を持ち右手、柄を持ちコジリにて蟲をつき殺すさまをなす此時右足一歩開く

涉險而進眞豪雄。

涉險にて左手に刀を委〻袴のもゝだち取りて右足より初め而進眞豪雄と吟じ止むまで其の姿勢にて前進（凡ろ四歩）すべし

天日之旗何整々。

天日之旗にて左手に持ちたる刀の鞘の下端を両手にて持ち右肩の邊に捧げ旗竿を持つ心持ち何整々にて左足一歩開きて其刀を左肩に添へて捧げ右足を引き寄せて直立す

紅輪閃動江城風。

紅輪よて又右足一歩引き刀鞘の下端を握りたる左手を伸ばし右手を腰にし旗竿の尖頭を眺める思入れ閃動よて又其の刀を右手に持ちて左肩の邊に樹て江城風にて左手を袖に入れて振り搖かし旗の風に飄へるさまをな

す

巨礮轟。吶喊起。

巨礮轟にて右手の刀を左手（袖に入れたるまゝ）の上に倒し其の左手にて鞘の鍔元を握り右手耳を蔽ふ（餘りきつく蔽ふは卑怯の様にてよろしからぎ唯耳に轟きたるを示すのみ）吶喊起にて右手にて刀を拔き左手は鞘を捨てゝ掌を上に向け下より上へ上げる此時一歩前進す

城壁崩。胡虜死。

城壁崩にて両手を体にひきよせ又勢よく前へつき出し物を押倒すさまをあし一歩前に踏み出し胡虜死にて左手、清兵の辮髪を握りゐるさまにて一歩後へ引き右手の刀を右より左に切り下げ敵を斬る身振り

滿城屠盡吁快矣。

滿城にて左手を右より左に動かし（掌を前にして）屠盡にて右手の刀にて左より右へ撫で切り吁快矣にて左手を添へ、袴にて刀の血を拭ひ頭を上げ莞爾として笑を含む

鮮血注ぐ江江水長。

鮮血注江にて右手、刀を持ちたるまゝ袴を揭げ左手をまた袴をかゝげ、やゝ体を俯して二歩後へ引く鮮血の流れ居る上を歩む心持なり江水長にて体を起して直立し刃を下にして左より右へうねくと曲線狀に動かし、終りに右へ伸ばして右の方に着眼す

浪捲紅雪勢激昂。

浪まて刀を前に山の狀に上下し大濤の形をなし捲紅雪にて左掌を前にして伸ばし二度ばかり圓形を畫し勢激

昂にてダヂ〳〵と二三歩体を後に退き又二三歩前に進み涙の打寄せては引き返へす狀をなす此の時は刀を右の肩にす

餘紅汎濫黃海水。

餘紅にて右肩にせ〜刀を前に持ち來り刃を下にし汎濫にて左手もて刃の鍔元より切尖へ向け鮮血の滴りを掃ひ去る如くに撫でおろ〜黃海水よて両手、刀の柄を持ちて刃を左側の後へやり稍体を俯して流れを見る体をなす

流自東洋及西洋。

流にて徐々に頭を上げ漸次に遠方(右の方を)望み自東洋にて左手を伸ば〜左方を指〜及西洋より刀を左肩の邊より右に掃ひ右を指して終る

◎豐　島　　近藤南洲

烟鬱興。濤激騰。煩聲轟天々欲崩。鋼鐵戰艦大如山。聞說海上屠羶腥」。咄辯髮虜汝何者。修飾羶腥稱華夏。狼貪虎饕。汝其性。敢向境外搆奇禍」。幾隻鐵艨艟。旌旗颯黃龍。强梁万甲士。氣宇呑海東。舳艫相銜互先後。傲然直欲

博奇功」。何料天兵神機太捷速。況有謀臣參帷幄。破裂丸迸万雷落。只見艨艟摧壞而蕩覆。萬甲士皆沈海去。長使妖鬼啾々海上哭」。嗚呼日出之國々稱神。万古有君更有臣。扶弱挫强存高義。不許外人漫問津。汝不聞狂胡入寇當年事。能生還者僅三人。

烟鬱興。濤激騰。

烟鬱興にて右手を掌を開きて伸ば〜二回ばかり圓形を畫き又左手も之と同樣になし濤激騰にて右手を左より右へ波狀に(掌を下向けよ〜)搖かし両手、裳を揭げて身を躍らし前に飛びて蹲る

煩聲轟天々欲崩。

煩聲にて蹲りたるまゝ両手にて右脇に大砲を抱きたるが如き狀をなし轟天にて天を眺め両耳を掩ひ天欲崩にて両手をさき上げながら身を起し右足一歩、後に開く

鋼鋏戰艦大如山。

鋼鋏戰艦にて右手、刀を拔き左手よて其の刀背を一打ちし大にて両手を廣げ如山よて左手を山形に動かし右足を引き寄せ直立し上を視る

聞說海上屠羶腥。

聞說にて刀を右肩の所まで引き寄せ頭を稍右に傾く右足一歩開く海上にて左手を伸ばして前方を指し屠羶腥にて刀を左脇より右へ横に拂ふべ〜此の時右足一歩前に出す

咄辮髮虜汝何者。

咄にて左掌きびしく胸を拊ち左足を引き寄せ辮髮虜にて左手を伸ばして敵の辮髮を引き寄せる狀をな〜一歩右足を開く汝何者にて右手の刀をつき付け眼を瞋らし之を威す狀をなすべ〜右足引き寄せる

修飾羶腥稱華夏。

羶腥にて、袴もて刀を拭ひ修飾して刀を鞘に納め稱華夏にて左片膝たて〜坐〜両手を膝よ〜稍体をそらして尊大倨傲の狀をなす

狼貪虎饕汝其性。

狼貪にて左手の指にて盃の形をな〜口の側へ持ち來り物を飲むさまをなし虎饕にて右拳を齒にて咬へやがて又きつく之を離〜牛豚などの生肉を喰ひちぎる狀をな

し汝其性にて両手にて腹を撫〜十分に飽きたるさまを爲す

敢向境外搆奇禍。

敢にて両手よてハタと膝を叩き決然と〜て起立し向境外よて両手を左右よ開き伸ば〜搆奇禍にて左右両手の食指を前にて交叉し干戈を交ゆるの意を示す

幾隻鋏艨艟。旌旗颭黃龍。

幾隻にて左手の指を折りて物を數へ（右手の食指を出して左掌を指す）鋏艨艟にて両手を開き船の大さを示〜旌旗にて両手もて前に長方形を畫し颭黃龍よて両手を胸にて組み旗の風に動くを仰き視る心持あるべ〜（右足一歩開く）

強梁万甲士。氣宇呑八荒。

強梁にて右足を引きよせると同時に右手もて左腕を拊ち万甲士にて左手もて右腕を拊ち左右の手にて頤の下にて胄の緒を〜める狀をなす氣宇にて両手胸を撫で下〜呑八荒にて左足を一歩開くと同時に両手にて頭上より大圏を畫し左右の股をうつ

舳艫相銜互先後。

舳艫にて左足を一歩前に踏み出すと同時に左手を伸ばし（掌を前にして）相銜にて右足を左足に寄せると同時に右手を伸ばして左掌乃稍後になし舳艫相銜の心持、互先後にて左足と共に左手を後に引き又左足を右足に引き寄せると同時に左掌を右掌の稍後まで伸ばす

傲然直欲博奇功。

傲然にて両拳、胸をうち直にて右手、前方を直指し欲博奇功にて右一歩踏み出し刀を抜きて切り付け又右足

を引くと同時に刀を右肩の所に引き來る

何料天兵神機太捷速。

何料にて左手を開きて左乳乃邊に置きながら左足より初めて二歩後へ引き退き天兵にて右手の刀を眞直に高く上げ神機にて右足をひきよせると同時に刀を前に左手を添へて持ち刃を見詰める太捷速にて刀を舞はしながら二三歩急進まして蹲踞し（左膝をつき右膝立てる）刀を席に付け稍体を俯す但し両手にて持ちたるまゝ

況有謀臣參帷幄。

況にて頭を起〜刀を右手のみにて持ち右側へ置き謀臣よて左手よて顧を支ヒ有参帷幄よて左手を膝に突き右手にて席上に地圖を畫する狀をなす

破裂丸迸萬雷落。

破裂にて左右の指を集めて大なる彈丸の形をなし右肩の所に持ち來り丸迸にて其の彈丸を前に擲つさまをなし萬雷落にて手早く刀を右手よ持ち蹲踞のまゝ後ろに飛〜さる

只見艨艟摧壞而蕩覆。

只見にて刀を左脇に挾みながら直立し艨艟にて右手を額にして遠方を望む摧壞にて左掌の上に右拳を加へ物を打ち碎くさまをなし蕩覆にて両掌を下に向け物を轉覆せ〜さま（但〜左手は脇にある刀を支ふる故に伸はすことなく右手のみ伸ばす）此時右足を開く

萬甲士皆沈海去。

萬甲士にて左脇なる刀を右肩に取り皆にて左手、右より左に掌を下にして撫で動かし〜沈海去にて両手もて刀を下方に下げやがて、右手のみに托ち之を伸ばして遙

か向ふを指す此時右足をひき寄せる

長使妖鬼啾々海上哭

長にて刀背を鍔元より刃尖まで左手にて撫し妖鬼にて刀を鞘に納め啾々海上哭にて両袖にて輕く面を掩ひながら蹲踞す

嗚呼日出之國々稱神。

嗚呼ゝて両袖を拂ひ日出之國にて起ち上り右手を伸ばゝて遠方を指ゝ國稱神にて左手の掌を上にゝて捧ぐ右手の掌を上にして捧げ又

萬古有君更有臣。

万古にて左足より初めて二歩退き有君にて両膝をつきて坐し(左膝を前にゝて)両手を頭上に捧げ更有臣にて左膝を後に引き半ば左方に向き直ると同時に刀を(鞘のまゝ)右手にて脱し右側ゝ置く

扶弱挫強存高義。

扶弱にて刀を前ゝ立て挫強にて右手は柄、左手は鍔元を持ちコシリ先きゝて物をコシルさまをなし存高義にて刀を左手のみに委し右手にて胸をシッカリ押さへる

不許外人漫問津。

不許にて頭を左右に掉り外人にて右手を左より右に大きく動かし漫問津にて左手なる刀を右手にて腰に挾む

汝不聞狂胡入寇當年事。

汝不聞にて塵を拂ひて起立し両手を腰にし狂胡入寇にて両腕をまくり當年事にて三歩前に進む

能生還者僅三人。

能生還者にて右足を引きて右廻りをなして背面となり

次に左足を踏み出して又右廻りをおし正面となる僅三人にて左足を右足によせ集めると同時に左手の指を三本（食指、中指、無名指）前に出す

◎敵愾餘音

滅耶滅謠五章

依田百川

頃者閭巷有滅耶滅謠詞素鄙俚然頗帶敵愾之氣乃翻作此曲

支那之水軍何其懦堅艦利礮書葫蘆紅毬一射黃龍死二千五百歸天吳防海將士心膽裂總兵降矣滅耶滅

支那之陸兵何其懦成歡牙山一戰屠卿木變作山河血膜拜求哀辮髮奴巾幗免死棄旄節將帥休矣滅耶滅

支那之文臣何其懦慷慨氣節一人無黃金如山誇豪富不爲國謀爲身圖朱明末路歸一轍宰輔毒矣滅耶滅

支那之武臣何其懦平時相矜韓岳徒事急万金募無賴兵營成群皆羸駑八旗百万彼何說貔貅疲矣滅耶滅

支那之人民何其懦敗而不怒非丈夫盍來試日本刀利遼東平壤何踟躕雄心消磨氣挫折國勢衰矣滅耶滅

次本田種竹韵賦時事

細田東鄉

天風漲妖夙感時情轉促秋風度玉關胡草吹殘綠滅秦還鏖項只賴運籌深如今名將在未必說淮陰

烟塵昏八道誰復事風流夜深烏鵲度孤月照烟幽

實々又虛々兵機眞詭道鋏蹄誰蹂躪四百餘州草

渤海阻風濤鴨江知捷徑及江海未氷旋凱奏全勝

大師事征戰諸將尽忘家風露鷄林野紛々拂劍花

持久爲非計。敵端君可知。電速兵家要。縱操莫失時。」

讀八田陸軍中佐出軍前日見寄書及一絶

因賦我所思却贈　太田靜所

聞君征萬里。寄我慷慨詩。往年戰肥薩。百回不伏雌。胸中鈐韜術。正中常出奇。風雲供叱咤。鞭馬陣頭麾。爾來二十載。馬革願裹屍。一朝奉羽檄。投筆從王師。席捲在方寸。死生豈足期。自持正且直。大勇方在茲。平生交闗臭。臨行寄所思。焚香正襟讀。三復頻展眉。噫我趙充國。平羌不彌期。凱歌振旅日。天顏喜可知。此生已耳順。兵馬欲隨遲。雖然嘗抱志。非君知者誰。清主本蠻族。古稱獵狁夷。向我敢宣戰。對韓遥制羈。王師仁與義。膺懲詢相宜。逐虜渡鴨綠。直至燕雲陲。割牛盟城下。且當截辨髮。興先王禮樂。復中國舊基。以立三代裔。千載此一時。

寄懷一戸少佐從軍在韓山　齋藤栗堂

夜月荒々照大旗。胡笳吹斷壯心悲。宮廷誰訴蒼生苦。戚里寧闗大厦危。江上風雲烽火急。城中草木羽書馳。沙場曝骨丈夫事。忱慨長歌酒一巵。

荒雞喔々夢難成。万里長空月照營。玉笛闗山無限恨。鎖衣風露若爲情。三軍將士旌旗色。八道荆榛鼓角聲。立馬檀君祠外路。浮雲西北是燕京。

鎖騎何時入不毛。風雲願聘擁千旄。燕京城闕三更月。渤海艨艟万里濤。紫塞天寒彫影寒。黄河日落厂聲高。思君夜々篝燈底。笑踞胡床讀豹韜。

到東瀛　笑々先生

銅鉦革鼓亂縱横。巨礮長槍半不精。五十旌旗空有影。

八千士卒定何情。軍門應惜虞姬別。提督能談趙括兵。
莫是國光誇海外。輸將戎器到東瀛。

發東京　三河隱士

親征車駕發東京。沿道歡呼父老迎。勇武無倫吾所恃。
頑冥不悟彼何情。天晴劍戟星辰動。風捲旌旄日月明。
万里凱旋應有算。皇々神武洽寰瀛。

恭讀征清詔　西汲江

神州天職有誰爭。旗鼓堂々仁義兵。徑當我文教彼用。
豐公宿志至今成。

李鴻章　西汲江

咸豐遺老獨斯人。晚節憐他誤大鈞。地下君臣應對泣。
衮衣未洗熱河塵。

又移營

朔北風雲惡。誰輕玉帛盟。九重已宣勅。千里又移營。
戰衝平壤。長驅陷北京。不德狼虎暴。何以答清明。

慰小提　東方君子國。仁義遍寰區。可惡鴟梟虜。容斧鉞誅。六
師慚小提。萬里企長驅。鴨綠江雖險。吾於如坦途。

賦凱旋

堂々王者旅。所向勇無前。劍戟風霜凜。艨艟鐵石堅。和
戎多誤國。宣戰本從天。盍速拔巢窟。歸來賦凱旋。

甲午八月贈門生某々等從軍在三韓　蒲生裝亭

我直彼曲太分明。師直爲壯々氣盈。我師堂々乃有名。
彼氣沮喪那爭衡。義兵所向鬼神驚。砲擊艦碎如浮萍。
牙山陸兵亦頹傾。銃砲旌旗棄縱橫。天兵來勝奪虜營。

俘獲如山難携擎。韓人始服我至誠。挫强扶弱義俠情。
君臣感泣舉國聽。獨立護得三韓城。我武維揚遍寰瀛。
須乘此機事遠征。在韓將士多儒生。曲直老壯諳兵情。
嚶鳴秋水戰血腥。一揮千里不留行。直當長驅衝燕京。
使彼逐爲城下盟。肝嗟乎宣戰詔已下。天廷侵攻如火。
勿暫停。

九月十三日恭承

皇上親征賦七言八句　杉浦梅潭

山河滿目六軍屯。大纛今朝出國門。豈啻民夷仰鴻烈。
應知將士泣殊恩。金鞍白馬曉聲動。鎭瓜皂雕秋氣翻。
遥指鯨波三万里。翠華先駐蠶南村。

秋感　仝

素餐身老感偏長。極目風雲氣激昂。古史評論欽偉略。
寶刀拂拭笑疎狂。天連渤海雷艇奮。秋入雞林草樹荒。
聞說邊庭寒威早。万兵蹂躪滿山霜。

寄楊六谷在韓山　黑木欽堂

鷄夜鳴。是不惡聲。楊生拔劍斫地歌且舞。星斗闌干光
芒明。韓城風雲慘天日。山河破碎鬼神泣。何物封豕逞
貪惏怒張饞口磨牙立。我皇仁德大于天。乃眷西顧隣邦
急。堂々王師度滄溟。用武有律歸安輯。楊生意氣雅不
群。斗南久期策奇勳。半生俠骨空負公。投筆從戎氣如
雲。上書北闕瀝汗血。請纓忼慨壓終軍。投身豹房從衛
霍。万里于役誓忠勤。朝辭帝王城。夕向虎狼穴。途過南
海潯。家山入眼青巖嵲。健鬬高排雲。孤雲影明滅。艨艟
不暫止。落日寒潮咽。男兒非無淚。中腸亦百結。雄心窄
八荒。豈做尋常女兒別。思汝平昔說勤王。明目戟手而

膽張。烏々醉唱從軍行。出身夙羨羽林郎。思汝今日在殊域。唔啞馳騁百戰場。鎭騎深藏綠江霧。劍華高拂白山霜。近聞王師戡群醜。々々蹭蹬遠逃走。何日見汝歸拜明光宮。肘後累々金印大如斗。

送高橋法學士從軍　田島法學士

鎭艦載筆待將軍。豪氣直衝渤海雲。磊落英雄餘事在。知君閑草凱歌文。

從軍　高橋法學士

喔々夜鷄豈惡聲。幾彈孤劍生五原。夢迷鴨綠江南路。文筆欲傳千古名。

祝戰勝　秋月章軒

霹雨硝煙韓海橫。鎭西人士躍將行。王師連勝載新紙。淸虜無謀絕舊盟。伏雌多年志千里。別燈草策夜三更。

蘇山深處讀經日。匣裏寶刀鳴有聲。

喜聞平壤大捷　古澤滋

王師傳捷何神速。平壤攻圍不信宿。辮髮胡兒漫辱大。定知一戰心膽破。君王英武開宏謨。絕海行師遺算無。將軍深謀士善戰。直取燕山作北都。

明治二十七年十月十六日印刷
仝　年十月廿二日發行　定價金五錢

編輯者　三田村熊之介　大阪市東區安土町四丁目百十五番邸

發行者　石塚猪男藏　大阪市西區阿波堀通二丁目六番邸

印刷者　山口恒七　大阪安土町心齋橋筋

發賣元　鹿田書店

版權所有

074699-000-1

特63-204

討清劍舞

三田村　楓陰／作曲

M27

CEJ-0287